

科学館の



コレクション

112

## ジョルダン式日照計

資料登録番号  
2019-04

古くから使用されてきた日照計のひとつで、気象庁でも、明治の中頃から1986年頃まで使っていたようです。小さい穴をあけた円筒内に感光液を塗った紙を入れており、ピンホールを通して入ってきた太陽光の軌跡を感光紙に記録する方式の日照計です。



ジョルダン式日照計  
左：外観  
上：内部の様子

円筒には2つの穴があり、穴は円筒断面上で直角になるようあけられています。設置するときには、円筒の軸を真南北に、傾きを緯度に合わせます。太陽の光が穴から入ると感光紙が感光し、太陽の動きを線として記録することができます。感光紙には時間の目盛り線が印刷されており、感光した時間を読み取って日照時間を測定します。

現在の気象庁地上気象観測で使用されている日照計は、回転式日照計です。ガラス円筒の中で回転する鏡に反射した太陽光を受光素子で受け、受光量の大きさから日照の有無を判別します。

また、以前アメダスでは、太陽電池の出力の大きさから日照の有無を判別する太陽電池式日照計も使用されていました。実は、科学館4階で展示している「ミニ露場」に設置している日照計が、まさに、「太陽電池式日照計」です！

今回ご紹介した「ジョルダン式日照計」は、6/21(火)より開催する企画展「気象の科学展～天気予報ができるまで～」で展示する予定です。企画展では他にも、昔使用されていた気象測器や資料など、普段は紹介していない内容盛りだくさんでお届けする予定です☀

西岡 里織(科学館学芸員)



回転式日照計



太陽電池式日照計